＜報告•記録＞

昭和期作文資料の収集報告
尋常小学校児童による作文

髙　谷　由　貴
人間科学部国際交流学科
takayayuki@toua-u.ac.jp*

《要　旨》
本稿は，昭和十二年・昭和十三年の尋常小学校の児童が書いた作文資料について記録し，紹介するものである。作文資料は，近年，言語資料として注目が高まっており，研究利用のための整備が急がれる。作文資料の収集・保存・公開を通した研究の第一段階として，古書市場にて入手した二冊の冊子『なつやすみのがくしふ』の手書き部分を文字起こしした内容を公開するものである。

キーワード：昭和期　作文　児童語　尋常小学校

1. はじめに

本稿は，昭和十二年・昭和十三年の尋常小学校の児童が書いた作文資料について記録し，紹介するものである。

作文資料は，近年，言語資料として注目が高まっているが，これらは個人または資料館が所持している場合も多く，まとまった形で閲覧することは難しい。

筆者は，大正期から昭和期にかけての作文資料および手書き資料の言語学的価値に注目し，全国の文学館・博物館あるいは個人が所蔵しているこれらの資料を収集・保存・データ化することにより，WEB コーパスの公開と，大正・昭和期口語の分析を行うことを目指している。

作文資料の収集・保存・公開を通した研究の第一段階として，現在，作文資料の収集を行っている。以下は，古書市場にて入手した二冊の冊子『なつやすみのがくしふ』の手書き部分を文字起こしした内容である。

2. 資料について

①岡山懸教育會編纂『なつやすみのがくしふ』二ねん　昭和十二（1937）年七月　印刷冊子に鉛筆で書き込みがあるもの。縦二六×十八 . 五センチ，40 ページ
②岡山懸教育會編纂『なつやすみのがくしふ』三ねん　昭和十三（1938）年七月　印刷冊子に鉛筆で書き込みがあるもの。縦二六×十八 . 五センチ，40 ページ

以上の二冊は同一人物による鉛筆の書き込みがある。次節に目次を示す。

3. 目次

3.1. 岡山懸教育會編纂『なつやすみのがくしふ』二ねん

表紙（表紙の裏に「なつやすみ　こころゑ」）
p.1　吉備津神社（郷土の誇）
pp.2-23　七月二十五日-八月十五日
p.24　味野の鹽田（郷土の誇）
pp.25-40　八月十六日-八月三十一日

* 2021 年 9 月より神戸市外国語大学国際交流センターに転属，メールアドレスは yuki-takaya@inst.kobe-cufs.ac.jp，littlemy1130@gmail.com

裏表紙（裏表紙の裏に奥付）

3.2. 岡山懸教育會編纂『なつやすみのがくしふ』三ねん

表紙（表紙の裏に「夏休　心得」）
p.1　作樂神社（郷土の誇）
pp.2-16　七月二十五日-八月八日
p.17　雪舟（郷土の誇）
pp.18-40　八月九日-八月三十一日
裏表紙（裏表紙の裏に奥付，愛國行進曲，進軍の歌，露榮の歌）

4. 冊子に収められた作文

岡山懸教育會編纂『なつやすみのがくしふ』は，夏期休暇の課題をまとめた冊子とみられ，読み物，計算問題，文字練習，作文等の問題からなり，一日につき1ページの問題が割り当てられている。全40ページで，「郷土の誇」という読み物が2ページ含まれており，児童による書き込みが見られるのは38ページである。

手書きの書き込みのうち，特に，「〜のことをおかきなさい」「文につづりなさい」という問題の解答として書かれた作文を中心に文字におこした。誤字・脱字と思われるものも，そのまま記述している。なお，個人情報に関連した部分に関しては紹介しない。問題に対する解答として書き込まれた文章は，「」で囲んでいる。判読が難しい文字に関しては□で置き換えている。

4.1. 二ねん

4.1.1 八月二日　月曜日　天氣　はれ

けふのあさからばんまでのことをおかきなさい。
「ぼくけふは6時にをきました。それから10時ごろになるとへいたいさんにいく人が五六人いきましたそのゝちにごうがいが来ました。」

4.1.2 八月七日　土曜日　天氣　はれ

夕方におもしろくあそんだことを文につづりなさい。（七夕さま）
「夕方になるとおかあさんが，おたんごをこしらへましたそうして七夕さましあけました」

4.1.3 八月十三日　金曜日　天氣　はれ

三，あなたのうちではおぼんにどんなことをなさいますか。くわしくおかきなさい。
「水いくわと花とせんかうなどおそなへしました。ばんには《地名》こうしやへ舟お持ていきました。そして，ろうそく，や，せんこうおもやしました。」

4.1.4 八月十七日　火曜日　くもり

けさからあったこと，したことをよくしらべておかきなさい。
「ぼくが5時にをきてらじをたいそうは5時30分にいきました。らじをたいそうがすんでかへってみたら6時30分になつていました。ごはんがすんてすんで10時のへいたいさんをおかあさんがみよくりにいきましたおぢさんもいきましたかへつてすぐごはんをたべました。」

4.1.5 八月十八日　水曜日　はれ

一，このごろたべるおやさいはどんなものですか，名前をおかきなさい。
「まめ。とうなす。きふり。なりび。さといも。じやがいも。」
二，このごろどんなくだものが目につきますか。名前をおかきなさい。
「ぶどう。もゝ。ばなゝ。なし。」

4.1.6 八月二十一日　土曜日　くもり

四，アナタガケフシタコトデカウカウトオモフコトヲオカキナサイ。
「おふろの火をたいてあげました。おみせのばんをしました。」

4.1.7 八月二十四日　火曜日　はれ

一，おやすみになってからあれはよいことをしたとおもふことをかきなさい。
「おかあさんにおからを買つて來てあげあした。おばさんやおぢさんにこうがいが來たから持つていつてあげました。おかあさんとお□えさんのねまをたゝんであげました。」
二，おやすみになってからはじまったよいくせをかきなさい。
「れい水まさつおしました。おかあさんにおは

ようをしました。」

4.1.8　八月二十五日　水曜日　はれ
一，つぎのことばをつかってぶんをつくりなさい。
大そう　　「ぼくは大そうはらがいたくなりました。」
なんとなく「おねえさんや森さんがよそへいったからなんとなくさびしくなりました。」
一そう　　「海にふねがいますが一そうだけほおかけてはしつています。」
ありったけ「神さまはありったけの力おだしておひきになりました」

4.1.9　八月二十七日　金曜日　はれ
二，つぎのことばをつかってぶんをつくりなさい。
さっそく　　「おかあさんがようをいったからさっそくじてん車にのっていきました。」
いつのまにか「ぼくがあそんでいるうちにいつのまにか空がくもつて來ました。」
ずっと　　「ぼくがあさおきて見るとずっと向がかすんでいました。」
ひらりと　　「ぼくがてふてふをとらうとしたらひらりとにげていきました。」

4.2. 三ねん

4.2.1　七月二十五日　月曜日　天氣　晴
三，私たちの學校はどんなにりっぱな學校ですか。
「大きくなって手びろくしたひともあれは田や畠をせいだした人もを國のために軍人になつた人もあり又の村の町長さんも四十年もど前にこの學校を出人です」

4.2.2　七月二十九日　金曜日　天氣　くもり
二，みぢかい　文をつくりませう。
①何ともいへない　「朝日がぱつと家の中へさしこむと何ともいへないよい氣持です。」
②しぜんと　「水の来る海や川へすなで山ををこしらへるとしぜんととけてゆきます。」
④さつと　　「學校のくわつどうへ行な時空がくもつてさつと雨がふり出しました。」

4.2.3　八月七日　日曜日　天氣　はれ
一，二宮金次郎の大そうおやを大切にしたことをかきなさい。
「小さいときからおやの手助おしました。」

二，あなたがおとうさん，おかあさんをたいせつにしておあげしたことをかきなさい。
「おふろをたいてあげました。おつかひに行てあげました。」

四，おとうさん，おかあさんをたいせつにしてあんしんをしていたゞくにはどんなことをしたらよろしいか。
「しつかり強勉してしつかりうんどうしてりつぱな日本人になる。」

4.2.4　八月十六日　火曜日　天氣　はれ
二，金次郎は大そうなんぎしてがくもんをしたのですね，どんななんぎをしましたか。
「をぢのおしへおまり夜になると本およみさんじつのけいこおしました。」

4.2.5　八月一九日　金曜日　天氣　くもり
一，あなたの泳ぎに行くのは，海ですか，川ですか，池ですか。
「どこでゝも泳ぎます。」
五，海の水と川の水とは，どんなにちがひますか。
「海のみずはからい
川のみずはからくない」

4.2.6　八月二十一日　日曜日　天氣　くもり
田植の時のあさと晩のたんぼのやうすのちがつてゐるところをかきなさい。
「朝はぜんぶ田植が出きてゐない。晩はぜんぶた植が出てゐる。」

5. おわりに

以上で資料に書き込まれた作文を紹介した。本資料の語彙的な調査により，当時の口語の姿を再現することができる可能性がある。このような資料をさらに収集すれば，子供・青少年

等，従来の資料では見られなかった書き手による文章を閲覧することが可能となる。これらは校閲・訂正を経ていない資料である点で，実際の使用言語に近いと考えられる。このような資料を用いた先行研究として，橋本（2007）は昭和初期の作文に見られる「よるごはん」の調査を行い，「夕食」の新しい言い方であると考えられてきた「よるごはん」が昭和初期から児童の作文に見られるという報告を行った。

このように，作文資料・手書き資料の活用により，これまで見過ごされてきた市井の人々による言語の使用状況が明らかとなり，昭和期当時の口語を再現することが期待される。

橋本行洋（2007）「語彙史・語構成史上の「よるごはん」」『日本語の研究』第3巻4号，pp.33-48，日本語学会